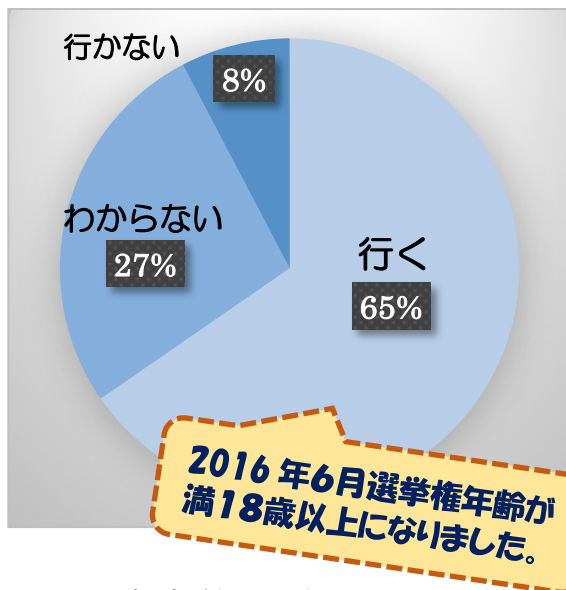


事前アンケート結果（抜粋）



参加高校生：27人

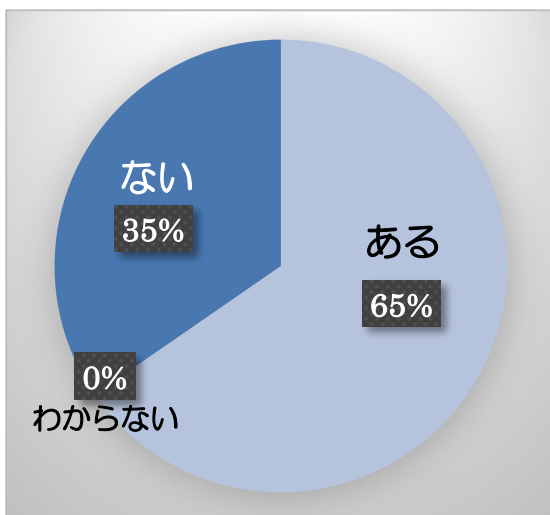
【選挙権があれば選挙に行く？】



【その理由は？】

- わからない。興味がない。自覚がない。
- 自分の用事が最優先。忙しかったらいかないかも。
- 政治のことを理解していないのに選ぶのは軽率だと思うから。
- 政治を左右する1票を持っているなら使ってみたい。
- 選挙権は仕事を任されたことと同じ。責任持って権利を果たしたい。
- 投票することは大事で、行動せずに文句は言いたくない。
- 自分の1票で生活が変わるかもしれないから。
- 自分の意見を政治に反映させるため。
- 行かない大人は無責任。行かずに文句を言うのはおかしい。

【友達家族で政治や選挙の話をしたことは？】



【若い人が投票に行かないのは何故？】

- 政治や選挙に関心がない。面倒くさいと思っている。
- 誰に投票すればいいかわからず、投票しても意味がない。
- 政治に関して内容が難しく理解できないから。
- 自分から情報を集めず、一人で行動できない人が多いから。
- 自分とは無関係、他人まかせになっている。
- 政治への魅力が薄くなっているため。

【投票に行かない若い人が増えるとどうなる？】

- 若い人の意見が反映されなく、高齢者向けの意見が通いやすくなる。
- 若い人が親になり、その子どもたちも投票せず、政治が変わらない。新しい見方や考え方が生まれなくなる。
- 安定的な投票を行う高齢者向けの政策が増え、社会保障費の膨張に拍車がかかり、若者に対しての政策が後回しとなる。

【どんな話？】

- 政治の仕組みや選挙権。
- どんな人が政治家にふさわしいか。
- 1票の格差。
- 市議会での話題。
- なぜ選挙に行くのか。
- 東京都議会議員選挙に関して。
- 一部の政治家の問題行動。

【若い人の投票率を上げるためには？】

- 選挙の目的・意義を学校の授業などで広める。
- 中学校の頃から政治の正しい知識を勉強をする。
- 政治に関わる機会が必要と思う。
- 政策などは分かり易い表現で伝えること。
- 投票期間を長くする。特典を考える。
- ネット投票が出来るようにする。SNSでの情報発信。
- インターネットの活用、若い人が興味を持つような方法。
- 若い人の興味を引くような政策を考える。
- 若い人が参画しやすい、直接問いかける“近い政治”が求められる。

《今回の衆議院選挙：下松市投票率》

全年代：50.92%

18歳：45.35% (229人/505人)

19歳：21.06% (103人/489人)

参加してくれた高校生のみなさん。ありがとうございました。